

県庁舎のあり方等に関する検討会 第1回にぎわいづくり部会 議事要旨

- 1 日 時 令和6年9月6日（金） 15時00分～17時00分
 2 場 所 兵庫県公館3階 第1会議室（オンライン併用なし）
 3 出席者

(1) 検討会構成員 ※敬称略

氏名	職名等	出欠
赤澤 宏樹 ※	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	出席
秋田 大介	株式会社イマゴト 代表取締役	出席
大畠 諭	西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部 開発戦略部長	出席
岡本 篤	株式会社ムサン 代表取締役社長	出席
嘉名 光市	大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻 教授	出席
小泉 寛明	有限会社Lusie 代表取締役	出席
施 蓮華	鯉川山手街づくり会 会長	代理出席 (施 文雄)
高田 知紀	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 準教授	欠席
津島 秀郎	神戸市都市局都心再整備本部 局長（事業推進担当）	出席
永田 耕一	元町東地域協議会 会長	代理出席 (沢口 涼祐)
奈良山 貴士	みなと元町タウン協議会 副会長	出席
蓮池 國男	神戸元町商店街連合会 副会長	出席
松原 亜希子	株式会社大丸松阪屋百貨店 大丸神戸店長	出席
溝口 克臣	山の手ふれあいのまちづくり協議会 委員長	出席
横山 直己	神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会 委員長	出席

※部会長

(2) 県当局

稲木理事、有田総務部長、菅元町プロジェクト室長、津志元町再開発課長、前野管財課長、上野儀典室長

4 発言内容

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

(1) 神戸市の取組紹介

- ・ 三宮再整備では、元町エリアも含めて都心全体の回遊性を向上させることで、来街者や働く場所も増やししながら、特に滞在時間を増加させ、さらなる民間投資も誘発し、まち全体の活性化を目指している。
- ・ 三宮駅周辺やウォーターフロント、市役所周辺では、商業・業務等の都市機能や庁舎建替、東遊園地などの再整備を官民連携で一体的に取組み、拠点の創出を進めている。

- ・ ハード整備だけに終始せず、周辺の地権者とエリアマネジメントの活動を行い、駅前広場や道路空間を活用したにぎわい創出に取り組んでいる。
- ・ 駅周辺の道路など再整備全体のコンセプトとして、歩行者中心の都市空間に転換していく。また、連節バス（Port Loop）や電動キックボードの導入、自動運転モビリティの実証実験など、各エリアの回遊性を高める取組を進めている。

（２）JR 西日本からの事例紹介

- ・ 県庁舎解体後の跡地を暫定的に活用する場合、カナダのトロントにあるSTACKTmarketが参考事例になるかもしれない。商業施設、レストラン等で構成されるにぎわい施設で、コンテナ建築や人工芝などを活用して暫定的に整備されている。県庁敷地と同程度の規模感である。
- ・ 子供用遊具、ドッグラン、テニスコートなどもあり、国際的なイメージで年代、性別を問わず、近隣住民から来街者まで様々な方がこの場所に集まり、コミュニティの起点となるような場所となっている。
- ・ 事例のような活用を検討する場合、県庁1号館と2号館の間の道路（神戸市道生田北136号線）は廃道したほうが広い敷地となるので望ましい。

（３）神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会からの提案

- ・ JR元町駅西口から県庁を経て、諏訪山の金星台に至る道中に点在する様々な歴史資産を、にぎわいづくりのベースとして活用してはどうか。また、金星台に因み、この道を「ビーナスロード」と名付け、南北の回遊性向上の基軸として位置づけてはどうか。
- ・ 神戸市では、神戸港近代化・都市発展に深く関わった海軍操練所について、市内に点在する関連遺産の活用に向けた協議会を開催しており、私も参画している。金星台にも関連遺産である「海軍営之碑」があるため、この取組とも連携してはどうか。
- ・ 金星台は、県庁、元町駅、大丸、神戸港が一望でき、まちのにぎわいが感じられる身近な場所であり、その周辺における様々な歴史を踏まえつつ、今の時代に合ったにぎわいづくりを検討していくことが必要。

（４）小泉氏からの提案

- ・ 県庁周辺の土地利用を検討するには、県庁舎と現在耐震診断中の県民会館のあり方を一体的に考えるべき。これらの建替を前提に、県庁周辺の施設配置案を描いたが、余った敷地を暫定的に活用するならば、広場を提案する。
- ・ 北野から諏訪山にかけてのエリアは、三宮や元町の市街地に近いことから住環境としてポテンシャルが高い。そのため、県庁周辺の土地利用は、海側の市街地よりも山側の住宅エリアとの接続をどう考えるかが重要。
- ・ 県庁舎については、テレワークの普及を踏まえ、適切なサイズで建替えるべき。
- ・ 交通量の多い山手幹線沿いは、安全性や騒音の問題があり広場には適さない。そのため、現在の1号館の位置に県庁舎を、2号館の位置に議場棟と県民会館機能を、県民会館の位置に広場を配置してはどうか。

- ・ 2号館と県民会館の間の道（長田楠日尾線）は交通量が少ないので、廃道とするか、歩行者天国（歩行者専用道路）にしたほうが、栄光教会も含めて大きな広場となるため望ましい。
- ・ 東遊園地や南池袋公園などのように、広場にはカフェなどの拠点施設がセットであるとよい。兵庫県の基幹産業である農業、林業などと絡め、子供向けのSDGs体験施設があってもよい。
- ・ 公館は民間事業者による運営でオープンな使い方にすべきで、例えばレストラン機能があれば、大ホールを活かして飲食しながら交流できる場所になる。コワーキングスペースや、カンファレンス、結婚式での活用も見込める。

（５）主な意見

- ・ 県庁舎のあり方を検討する上では、元町駅周辺の地域づくりという大きなスケールから考えを進めていくことが肝要。その端緒として、県庁及び元町駅周辺の多様な価値と課題を抽出する作業が必要。
- ・ 地域づくりには関係する多様な人々の合意形成が必要であるが、そのためには検討会だけで議論せず、少数意見も議論の俎上にあげることが重要。そうすることで、紛争や対立を回避できるほか、新たな提案が生み出されることにも繋がる。
- ・ 兵庫県説明資料に記載のある「JR元町駅西口周辺のバリアフリー化の検討について」（p11）は、当時検討されたとの認識はしているが、当社として決定事項との認識はない。
- ・ JR元町駅西口をもう少し西側に移設すれば、北側への動線における傾斜が少し解消されるのでは。東口も少し西側に寄せ、エスカレーターをつけてほしい。
- ・ 元町には高層建物は必要ない。元町駅前を広場化するなど、広場や芝生、ベンチなどがある優しい街にしていくことで、北側にも自然と人が流れると思う。
- ・ 元町は、県庁の城下町として、西洋風のストリートが整備されて発展してきた歴史も踏まえ、防災の観点からも現行規模での現地建替を早急に決めてほしい。
- ・ JR元町駅の開業90周年の機運を捉え、現状の駅は基本的に南側にしか開いていないが、北側にも大きな窓口を開き、駅を中心とした南北動線を作っていくことを地元としても議論していきたい。
- ・ 今後、人口が減少していく中で、フルスペックの施設を整備する必要があるのか。賑わいを議論する際にもそのような観点が必要ではないか。
- ・ 今回の会議メンバーだけで議論するのではなく、どのようにオープンに議論していくかも重要。県庁のあり方については、職員の意見もよく聞くべき。
- ・ 神戸都心を俯瞰すると、元町駅は東西方向では三ノ宮駅と神戸駅、南北方向ではヴィーナスブリッジとウォーターフロントのちょうど中心に位置するため、ビックハブとなり得る。ただし各エリアに歩いて行くには距離感があるので、中継地点にもハブがあると、まち歩きに対するハードルが下がるのではないか。
- ・ 来街者を増やすには、JR元町駅の乗降客数アップに向けた取組が必要。
- ・ 元町は「神戸」の象徴であり、旧居留地・南京町・商店街などコンテンツが揃っている事から総合的に魅力発信をしていくべきだが、一方、京都や大阪など近隣都市との競争を考えると、元町のみならず三宮も含めた、より総合的な価値発信による「賑わいづくり」に行政連携の下、挑戦していく必要がある。

- ・ この検討会で多岐にわたることを議論しようとしているが、県庁舎のあり方については、いの一番に決めていかないと議論が発散してしまうのではないか。
- ・ 元町エリアの南北動線の課題として、JRの高架により物理的な分断があり、かつ傾斜もあることから、山側へ登っていくには相当な理由・動機が必要。
- ・ 南北の回遊性の向上が、誰のために必要かということから考えるべき。
- ・ 元町駅の北側に人の流れを作るなら、目的性のあるものがないと難しい
- ・ 東京の武蔵野駅の高架下のように、店舗や公園が入ったりしていて、通り抜け可能な箇所が一定あるとよいかもかもしれない。
- ・ この部会では考え方の前提を置かず、各メンバーがそれぞれの知見・専門的観点から、自由に意見を述べる場でよいのではないか。それを受け止めて、県において、県庁舎のあり方等を考えていくうえで県に考えてもらったらよい。
- ・ 南北の高低差について、県庁周辺は公共施設も多いので、今後更新予定の施設自体や敷地を上手く使いながら、できるだけ緩和するアイデアが必要。
- ・ 県庁周辺には学校が多いので、子供たちにとって毎日歩きやすく、安全な通学路を作る視点が重要。そこに、来街者が楽しく歩けるような視点を加え、休憩場所の確保などを検討していくのが自然ではないか。
- ・ 回遊性の向上には、県庁周辺エリアが重要になるが、その周辺とのネットワークも併せて考えるべき。
- ・ 県庁周辺にオープンスペースを整備する場合、県だけでは管理運営できないと思うので、指定管理制度やPark-PFIといった民間活力による仕組みや、地域の方に関わっていただくこと等も含め、検討したほうがよい。
- ・ 県庁舎を建替える場合、金星台からの眺望を考慮することや、県庁舎自体がどう見えるか、景観的な特色をどう持たせるかといった論点も重要。
- ・ 県庁舎と広場の連携は、北海道庁の旧庁舎を活かした北3条広場は、官民共同で開発され、イベント会場のように使われている事例が参考になる。
- ・ 市役所等と違い、県庁舎が地域のことを考えてあり方を検討することはこれまでほとんどなく、素晴らしい取り組みだと思うが、にぎわいづくりと併せて検討する必要性は整理したうえで、県政の拠点として大事な視点が疎かにならないことは大前提に考えるべき。
- ・ 災害に強く、県民が誇りを持てるような立派な県庁舎を建てて欲しい。山側からも海側からも映える視点も重要。
- ・ 傾斜がきついエリアであり、津波が来た場合は元町駅の北側まで逃げる必要がある。避難場所となり得る県庁舎を建替えて、広場地下に備蓄倉庫などの災害対策機能を持たせてほしい。
- ・ 元町駅から北側への高低差を解消するため、できるだけ施設同士を繋げていくような動線を整備し、そこに屋根等もあれば、暑さ対策にもなり望ましい。